

十二月二十四日 午後零時四十分 靜岡沼津弱震

十二月二十四日 午後〇時四十分 甲府、相州秦野強震

十二月二十六日 午前五時二十二分 鹿兒島地震

○大正十三年一月以後の地震

一月四日 伊太利アドリアチック海岸ヘサロ、モンドルフ

カ、サン・コスタンツ附近、激震 十六回

一月十五日 東京激震

一月十六日 午前四時二十分 若松會津地方激震

一月十七日 午後 高松地方地震

一月十九日 午前三時五十分 神戸地方地震

一月十九日 午前九時三十八分 仙臺地方弱震

一月二十三日 午前五時二十分 高松地方地震

一月二十日 午前十一時三十分 和歌山地方激震、鳴動

一月二十六日 夜 ヘルー地震

一月二十七日 鳥取縣日野郡 微震(三十日迄繼續)

一月二十七日 朝 比律賓諸島大部分 地震

一月二十九日 南米地震、四回

二月三日 午前二時 九州西岸一帶、鹿兒島微震

二月四日 午前三時十三分 鹿兒島地震

二月六日 午前 和歌山地方強震、二回鳴動

二月十日 午後六時二十五分 大阪微震

二月十日 午後六時二十五分 湘水弱震

二月十日 午後六時二十五分 徳島微震

二月十二日 午前二時四十九分 東京弱震

二月二十日 午後八時五分 和歌山強震

二月二十三日 朝 南米エックアドル激震

三月四日 朝 中米ニカラガ州サン・ファン・デル・スール

激震三回

三月四日 午前四時 中米コスタリカ的首府サン・ホセ激

震、十二時間内に四百十一回

三月十日 勅察加連日小地震

三月十五日 午後八時 樺太敷香、鶴城強震西海岸名好附近

地震龜裂、餘震十餘回

三月二十四日 午前九時五十二分 松山地震

三月二十五日 午後七時二十九分 釧路地方地震(本年二十八

同日)(小牧)

新刊紹介

○Bartholomew: The Handy Reference

Atlas 1923. 第十版 價格六圓貳拾錢

パースロミヤの四六版の小世界地圖が今度第十版となつて新に出た、家庭に備へつけるに手頃な地圖でもあり、新らしき歐洲外國其他の境界等をしるのに尤も信憑すべき地圖として、文檢參考などに尤も適當のものに信する。内容は最初の六十六頁は天體及地球の大きき海洋山川湖島等の表で加ふるにアルハベツト順に世界各國名が載せてあつて其面積人口首都商港物産等

が簡単に記述されてゐる例令は「イラク」王國などを檢索するに英國の保護をうけてゐる新王で國面積十四萬三千二百五十平方哩人口二百八十四萬九千二百八十九人、首府バグダート云々とのつてゐる云ふ風で極めて重寶に出来てゐる、地圖は二百二十三頁で印刷鮮明、地名豊富これに百七十一頁のインデックスがついてゐる勿論政治地理に關する輿地圖であるから、自然地理學的の地圖にあるやうな地勢などを知るさいふ方面には缺けてゐるけれども一枚丈け英國附近の地形圖がのせてあつてドイツ氣一バンクなどの形勢をも示めてあり、又世界總圖の中にはが象人文に關するものがあつて、言語分布圖産業分布圖標準時區交通商業圖など簡單ではあるが要を得たものが多い。中等學校又は高等學校生徒の地理自習用にも適當であると思はれる何分價も廉く手頃な恰好であるから一般の需要に應じたものであると推獎するを憚らぬ。(藤田)

○Ratzel: Politische Geographie (政治地理第三版

ラツツェル著)

人文地理學の大家、故フリドリヒ・ラツツェルが政治地理——國家と土地との關係的研究——を科學的に建設して一八九七年はじめに世に問ふや、學界の注意は此の書に集注せられ多くの批評と讚辭が出たので、氏は之に鑑み一九〇三年之に改補を施し殊に交通と戰爭との二事項を一層加味し、第二版を發行したが、本書は政治地理の第一流の文献として學界の尊重するところとなつて居つたのである。翌年氏歿するや、其の後本書は久しく絶版となつて居つた處、昨年七月其の門弟現ツイン大

學教授オーベルハンメル(Oberhammer)は歴史的地理の大家で、古代地理・バルカン・地圖學の歴史等に關する有益なる研究報告がある)の手によつて若干の改訂が加へられ第三版として世に出た、こゝは一九二一年ラツツェルの名著人文地理第一卷の校訂版の出現せることと共に學界の大なる喜であらねばならぬ。私は近頃本書を入手したから之を第二版と比較して取敢ず讀者に報にようと思ふ。

本書第三版は之を第二版に比べると、書の大さは同一であるが本文の頁數に於て二一二頁の減少即ち六一八頁となつて居るこれは第二版中の事項を若干省略した箇所もあるが、主として字體を小さくし且行數を増した結果である。挿圖は七個増加し脚註も豊富になり、人口密度表の如きも最新の材料によつて居るし、索引も改良された。本文の九章二十五節は變りはないが第三版にはオーベルハンメルによつて「ラツツェルの政治地理并に政治地理附近の發達」の一節が附加せられて居る。之は興味ある一文であるが何れ稿を改めて紹介することとする。發行所は第二版と同いで Oldenbourg 書店、價拾貳圓(西田)。

○日本の港灣 大正十三年二月發行定價七圓

日本の港灣を題して記す處四十四港、所謂内務省の指定港灣に止まるが、其實料は各府縣土木課及内務省土木出張所の提出報告によれるものであるから行文元より流麗なるを得ずとも各港何れも詳細なる地圖を掲げ、其沿革より現況に及び後方地域との關係輸出入統計等を網羅して遺憾なきを期したものであつて、我國にあつては實に空前の權威ある良著述である。發行

者は最近に出来た港灣協會であつて帝國地方行政學會から賣出してゐる、全體で五七六頁の大冊で印刷鮮明、裝釘雅馴と評すべきである。姉妹編として第二巻は内地の残りの港灣を記し第三巻は植民地の港灣を網羅するといふのであるが、予は更に全國の諸港灣に亘りて斯の種の調査發表を切望し併せて海國民の一讀せんことを祈る。(藤田)

### ○朝鮮交通發達號

大正十二年十月一日  
朝鮮總督府  
朝鮮總督府官房庶務部調査課から月刊雜誌「朝鮮」といふ名前のものが發行されてゐる。内地の人には殆ど之あるを知らぬかもしれぬが、極めて眞面目な資料豊富、行文流暢な良雜誌である

この雜誌は昨年十月朝鮮の交通發達を記念すべく特別號を出した、夫れがこれである。口給寫眞版も數が多く附圖として交通圖がのり、古代に於ける内鮮の交通や、古代に於ける支那との交通をはじめ朝鮮の海運及國有鐵道の發達現況を記述してゐる執筆者は主として當事者技師の類であるから尤も信頼すべき資料と評すべきである、この雜誌には現況の外に交通の發達各地人文に及ぼせる影響が詳論してあつていかに交通の改善が産業を開發したか云ふ事を知る、ことが出来る。(北鶴)

## 質 疑 應 答

### (一)地震計の説明

答 大森房吉氏著地震學講話、今村明恒氏著地震學講話を見よ  
科學智識(大正十二年十月)震災號に今村博士の地震の話が載つてゐる其の第四節に地震の観測を論じ地震計とは地震の際に於ける地面の任意一點の振動徑路を時刻に關係して記録する裝置である今日普通に行はる、地震計は地動を水平動と上下動とに分解し、又水平動は東西動又南北動と云ふが如く二つに分解して記録させる。斯くして得たる記録を地震記象と名づけるを説明し水平動地震計に關し便宜のために東西の水平動に對する不動點を求め方法の圖によりて説明し上下動地震計に關しても同様の説明があり水平動の分はユイニング教授の發明に屬し又上下動地震計はグレイ教授の考案をユイニング教授の改良に依つて完成したものであると述べ轉じてウキーヘルト教授の重錘地震計を説明してあるがガリチンの地震計に關しての説明がない本誌は期を見て地震計一般に關する解説を掲載するであらう。  
(二)メルカトル圖法の特徴を述べ何故に海圖には此圖法を用ふるかを説明せよ。

答 Maps and Map-making. By Reeves London 1910. 一を見よ  
英文にて尤も簡單明瞭に説明しあり、地圖學一般の好參考書なり、定價四圓六拾五錢。

小川琢治著地理學教科書には

「赤道に於て地球儀に接觸せる圓柱面に經緯線を投影するを圓柱圖法といふ、其一種はメルカトル式圖法にして經緯線に圍まれたる各區内にては方位正しくして航海用に適す。然れども此

問 大正十二年度地理科本試驗問題に關して解説并に注意を承りたし。(京都、柳生生)